

郷土しりょうかん

わたりちょうりつきょうどしりょうかん
亶理町立郷土資料館

〒 989-2351 亶理郡亶理町字西郷140

Tel 0223-34-8701 Fax 0223-34-8709

E-mail kyoudo@town.watari.miyagi.jp

海を渡った侍たち ～亶理伊達家の北海道移住～150年～

No.6 明治時代の北海道移住と亶理

明治時代初め、亶理伊達家中が北海道に移住したことによって、亶理に残った人々は新たな町づくりを行わなければなりませんでした。そのシンボルとして、明治12年(1879)に亶理の有志によって亶理神社が創建されました。亶理神社は亶理伊達家の居館亶理要害の地に建てられ、初代領主成実が祭神「武早智雄尊」として祀られました。人々は亶理の基礎を築いた成実に新たな町づくりを見守ってほしいという願いを込めたのです。

明治7年(1874)、政府は中国の制度にならった屯田兵制度を設けました。北海道に屯田兵村を置き、人々は平時には開拓農民、有事には兵士となるというものでした。第1回の募集は東北地方の士族を対象に行われ、亶理からは94人が屯田兵として海を渡りました。亶理出身の兵たちは琴似村(現札幌市西区)や山鼻村(現札幌市中央区)の屯田兵村に居住し、開拓をしながら軍事訓練を積み、明治10年(1877)の西南戦争ではその力を発揮しました。

この後も明治30年代にかけて亶理から多くの人々が北海道へ移り住んでおり、特に明治38年(1905)の大冷害では人々が生活に困窮し、伊達村をはじめとして北海道に移り住んだ人を頼りに、多くの人々が海を渡りました。明治時代の記録には、亶理から伊達村を訪れた際

には連日のように歓迎を受けたと記されるなど交流は続き、昭和56年(1981)には亶理町と伊達市が「ふるさと姉妹都市」を締結しています。現在でも、児童・生徒の交流事業や災害時の支援をはじめ、屯田兵子孫会での訪問や個人の方の先祖の墓参りとして亶理を訪ねる方は多くあり、歴史とともに今後もこのようなつながりは続いていくことでしょう。



▲亶理神社鳥居と社殿

「郷土しりょうかん」は、令和2年4月に発行予定です。
郷土資料館、図書館、各公共施設の窓口にありますのでご覧ください

2月15日(土)～3月15日(日)

企画展示室で開催のテーマ展は、^{きかくてんじしつ} 巨理町荒浜の^{かいさい} 江戸家^{わたりちょうあらはま} 四代江戸^{えど} 清吉氏^{せいきち} (1884～1938) が^{しゅうしゅう} 収集したコレクションの中から、被災後修復を行った資料を中心にめでたいものが描かれた^{えが} 掛軸や、^{かけしき} 膨大な数に上る^{ぼうだい} 宝船絵など約40点を展示しました。展示資料の中から2点をご紹介します。

めでた掛け 「天人迦陵頻伽之図」

作者 ^{くまがみこうねん} 熊耳耕年 (1869-1938)

天上に戻った^{てんにょ} 天女が^{かりょうびんが} 迦陵頻伽とともに音楽と舞を楽しむ姿が描かれた掛軸です。迦陵頻伽は仏教における想像上の生き物で、上半身が菩薩、下半身が鳥となっています。

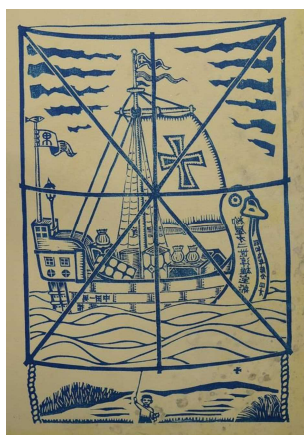
熊耳耕年は仙台出身の浮世絵師で、^{とうきょう} 東京で活躍していましたが、本作品を描いた昭和8年(1933)には^{せんだい} 仙台に戻っていたとみられます。



宝 船



▲ 竹久夢二 作



▲ 「浪華宝船会」
柳屋頒布 中田一男作

大正2年(1913)ころから、大阪の趣味人らによる宝船絵交換会「浪華宝船会」が開催され、毎年会員向けに頒布が行われていました。会には書店主や傘商など各趣味人達が名を連ね、絵には干支などが趣向を凝らして描かれ、しだいに絵葉書も頒布されました。

清吉氏は大正11年ころから収集を始め、宝船帳としてまとまった形で残されているのはとても貴重です。

このほか、竹久夢二(1884-1934)作の宝船(1920)解説書付きでコレクションされています。



亘理伊達家雛人形公開



2月16日(土)～3月3日(日)

^{じょうせつてんじしつ} 常設展示室に^{いしかわ} 石川家伝来の^{だて} 亘理伊達家の^{ひなにんぎょう} 雛人形を^{こんれい} 婚礼道具の調度品とあわせて展示しました。

この雛人形は、^{くにしげ} 亘理伊達家十四代伊達邦成の三女^{ゆうこ} 佑子氏が、嫁入り道具として嫁ぎ先の^{とつ} 石川家に持参された^こ 古今雛です。石川家は亘理伊達家と同じく^{せんだいはん} 仙台藩の御一門であった^{かくだ} 角田石川家の流れをくむ家柄で、平成14年(2002)の伊達成実の^{いせい} 亘理入府400年を記念して^{いせがね} 郷土資料館に寄贈されるまで大切に受け継がれてきました。





「移動しりょうかん」を実施しました！

郷土資料館では、小学生を対象に町の歴史や文化、伝統を伝える学社融合推進事業「移動しりょうかん」を実施しています。今回は、小学3年生社会科の授業として行った「昔の道具とくらし」の出前講座の様子を紹介します。

実 施 内 容

実 施 校 ^{こうや}高屋小学校

日 時 令和2年1月21日

参加人数 10人(1クラス)

使用体験

* ^{てんびんぼう}天秤棒を使った ^{おけかつ}桶担ぎ

* 炭火アイロンでのアイロンがけ

* ^{せんたくいた}洗濯板を使った洗濯

道具の解説

* ^{いしうす}石臼

* ^{あんどん}行灯



参加した児童のみなさんは、道具の重さや使い方の難しさに戸惑いながら使い方を体験し、自分たちの町での昔のくらしぶりや工夫しながら生活していた様子を知り、感心していました。



▲炭火アイロンに挑戦！



▲洗濯板でハンカチを洗う

昔の道具体験は
いかがであったか？



文化財防火訓練を行いました

1月26日は第66回文化財防火デーでした。この日は、文化財を災害から守るとともに、国民の文化財愛護に関する意識の高揚を図ることを目的として、昭和30年(1955)に制定されました。

亘理町では、毎年町指定文化財などを対象に訓練や査察を行っており、今年は1月22日(水)に町指定文化財の関の観音立像が納められている逢隈鹿島地区の観音院で防火訓練と査察を行いました。

亘理消防署や地区の方々と査察を行い、消火器などの設備点検をするとともに、通報訓練や初期消火訓練を行い、参加された方々は文化財への関心と防火の意識を高めました。



▲水消火器初期消火訓練



▲放水訓練



▲関の観音立像



2月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11 建国記念の日	12	13	14	15 テーマ展→
16	17	18	19	20	21	22
23 天皇誕生日	24	25	26	27	28 資料整理日	29

3月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15 テーマ展←	16	17	18	19	20 春分の日	21
22	23	24	25	26	27 資料整理日	28
29	30	31				

◆ は休館日

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、3月3日から3月31日まで休館となりました。ご迷惑をおかけいたしますがご了承ください。

利用状況



R1.12.1～R2.1.31

常設展

- 資料館を開館した日……22日間
- 累計観覧者数…201,695人

- 観覧者数…555人(1日平均26人)

※12月は展示室照明LED化工事のため休館

おわりに

中面のテーマ展「めでた掛けと宝船」コーナーでは展示資料についていくつか紹介しましたが、みなさんは新年に「宝船」を作る習慣はありますか？

宝船とは、七福神や八仙が乗る宝物を積み込んだ帆船、またはその絵のことで、様々な宝物が乗っていることから、おめでたい、縁起物として親しまれてきました。そして、正月2日にその絵を枕の下に入れて寝ると良い初夢を見ることができるとされています。

展示資料の宝船には、七福神や宝物が描かれているだけでなく、干支や「多幸」をなぞらえた「蛸」、縁起物とされる「二股大根」を船に見立てる、など作者の趣向が凝らされています。

また、竹久夢二の宝船は男女が乗った船の帆に鎌と椀が描かれていて、「お前と一緒になら命も構わん(鎌と椀)」という意味が込められているなど、先人達の洒落やユーモアをも感じることができる貴重な作品です。



郷土資料館利用案内

* 開館時間…9:00～16:30(入館は16:00まで) * 観覧料…無料 * 特別展等有料の場合あり